

科学技術映像祭科学技術庁長官賞／科学技術庁推奨

富士山を測る

企画：大成建設株式会社
製作：（株）桜映画社

<16ミリ・カラー・25分>

[指導協力] 建設省国土地理院
東京大学地震研究所

[解説]

日本で一番高い山、富士山。その高さは、3,776mと知られている。ところで、この高さはどのようにして測られたのだろうか？

富士山の高さが初めて測られたのは江戸時代で、その時の高さは35,62163町、メートルに換算して約3895.1m。また、伊能忠敬やシーボルトも測っている。明治になると、精密な計測機器が導入され、3,778mというメートルの桁まで精度が高められた。そして、大正15年に今の高さとなった。

このように、日本の測量技術の発展とともに、富士山の高さは書き替えられてきたが、いずれの高さも、山麓から山を見上げる角度と距離をてがかりに間接的に測った「三角測量」による値で、直接山頂まで登山して測る「水準測量」によるものではなかった。

そこで1993年夏、最新の測量技術を投入して、富士山の高さが「直接水準測量」と人工衛星を利用した「GPS測量」で検証された。その結果、3,774.971mという値が得られた。これは現在の富士山の高さ3775.63mに極めて近い値であった。

作品は、50日間に及ぶ膨大な時間と労力をかけ測り継いだ富士山計測の記録である。

[製作スタッフ]

製作＝村山英世

編集＝大高 勲

脚本＝山田和広

音楽＝角田 敦

演出＝山田和広

MA＝IMAGICA

撮影＝木村光男

解説＝徳弘夏生